

第38回

神奈川県美術展

The 38th Kanagawa Art Exhibition

2002

第38回 神奈川県美術展

1期展／平面 立体 平成14年9月11日(水)～9月23日(月・祝)

2期展／工芸 書 写真 平成14年9月25日(水)～10月6日(日)

会場：神奈川県民ホールギャラリー

主 催／神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール [(財)神奈川芸術文化財団]
神奈川県

共 催／(財)厚木市文化振興財団 (厚木巡回展のみ)

(財)座間市スポーツ・文化振興財団
座間市立市民文化会館 (座間巡回展のみ)

厚木巡回展／平成14年10月9日(水)～20日(日)

会場：厚木市文化会館展示室

座間巡回展／平成14年11月7日(木)～17日(日)

会場：ハーモニーホール座間

(座間市立市民文化会館)

ごあいさつ



今年も、多くの皆様に優れた作品をご出品いただき、神奈川県美術展を開催できますことを主催者の一員として大変うれしく思います。

今年で第38回目を迎える神奈川県美術展は、昭和40年の第1回展開催以来、歴史ある美術展として、幅広い県民の皆様に親しまれてまいりました。

本美術展の入賞、入選作品の水準の高さには定評があり、この展覧会での受賞を契機に、全国規模の美術展で入選を果たされるなど、活躍の場を広げられた作家の方も少なくありません。神奈川にゆかりある方々に、日ごろの研鑽の成果を発表する機会を提供することはもとより、芸術家として将来の美術界を担う人材の発掘・育成に寄与するものとなっております。

今回も、「平面、立体」、「工芸」、「書」、「写真」の各部門に、厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品が数多く出品されており、ご来場の皆様方に新たな感動を与えてくれるものと確信しております。

さて、近年、私たちの心に潤いと安らぎを与える芸術文化への関心がますます高まりを見せる中で、本県では、県民の皆様とのパートナーシップを大切にしながら、さまざまな芸術文化活動が多彩に花開く環境づくりに力を注いでおります。こうした中、本美術展の開催が、今後とも個性豊かな地域文化の発展の契機となることを願ってやみません。

最後に、本美術展の開催にご尽力いただきました関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

平成14年9月11日

神奈川県知事 岡崎 洋

ごあいさつ



昭和40年にスタートした神奈川県美術展は今年で38回を迎えることになりました。これまで若手美術家の登竜門として、また数多くの美術家を輩出してきた県内随一のコンクールとして、ながく本県美術界に貢献してきました。

今回は、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に956人、1,769点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、480人、544点の作品が選ばれました。

本県は美術活動の盛んな環境を備えており、また近年の生涯学習熱の高まりとも相呼応して毎年出品点数が増えており、選ばれた作品はいずれも高い水準に達しております。

今回応募された皆様の心意気に深く感謝するとともに、これからもこの県美術展に対して熱い眼差しを向けてくださることを祈念します。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に専門的な立場からアドバイスをしていただいた県美術展委員の皆様に厚くお礼申し上げます。

また、時節柄厳しい現況下にありながら、特段のご支援を賜りました財団法人神奈川県美術奨学会様、及び財団法人はまぎん産業文化振興財団様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成14年9月11日

神奈川県美術展委員会
委員長 上野 豊

1期展

平面 立体

受賞作品目録

《平面 立体》

大 賞	高梨 裕理	横浜市	水面（みなも）
準 大 賞	三田 健志	相模原市	Perfect—8th
特 選	前田 啓子	川崎市	とりこ
特 選	高賀 貴里子	渋谷区	おしりちゃん
特 選	佐藤 佳彦	相模原市	Trinity
県立近代美術館賞	松永 明子	横浜市	時間の音
美術奨学会賞	辻 真由美	藤沢市	ツタエル
はまぎん財団賞	大籠 弘子	秦野市	作品I
U 氏 賞	榎本 香菜子	葉山町	不安な散歩1

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※はまぎん財団賞は、(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される賞です。

※U氏賞は、神奈川県美術展委員会の上野委員長から神奈川県美術展に出品された作品の中から独創性に富んだ優秀な作品に対して給付される賞です。

※市町名は現住所です。

入選作品目録

《平面》

畠中 陽一	equality 2	関 迪子	コンボジション I
今井李々子	無題 2002-II	江上 伸	FISH
知久 茂雄	残照	渡辺 勇	生命体(I)
大矢 雅章	霏霏 02-17	鈴木 幸子	Being set
水村 繁	刻む	吳 亜沙	Dancing
飯村 優	ハガクレ	橋本 明子	2002 June - July さめて見る夢
山縣 寛子	夜光雲	關 明義	行方知レズノ夏
佐々木朋子	Pas De Chat L	山下 浩子	存在理由—混沌の中から
有賀 孝子	私は私 II	嵐 晴生	慈しみと祈りの彼方
湯川 列晟	通過と閉塞A	川城 夏未	Balance 2002 No.2
YOKO・田中	ある記憶【快】	亀山 治代	景 II
吉見 律子	TOUCH	澤岡 泰子	To the Universe - 2
芝田しげる	和のかたち 1	木内 敏行	-0.1ヒー-0.2の間
鶴飼しをり	譜 I	大沼真由子	2525記念
塙崎美佐子	凜・凜	洞口真理子	フロンティア
天形 真紀	風懐	新恵美佐子	花
竹田 笑梨	The Portrait as background music (背景音楽による肖像)	国方 房子	風化する記憶(III)
須田 千尋	ナショナリズム	肥沼 守	航海譚～キドラ島～
吉池さとみ	Work (echo) III	渡辺 幸子	過ぎ去りし日 I, 2002
関水 英司	日常の病理 II	浅川 洋子	樹の白い風
田口 弘勝	我に戻る I	田中 講平	—
松村 歩	水鏡	根本 美恵	ナツミカン
江川 純太	富士の如く	下山 結香	紙の上に歩く 紙の中で泳ぐ
藤崎 淳子	光の感触 II	産形美奈子	ムコウの木
高木 彩	a line of imagination	内田 佑子	gloves
青木 治子	彼岸	元木 秀信	時間と空間の接点
萩原 知子	Mikuri	佐藤 靖子	woman II
佐竹 邦子	Winds work -21	鈴木 國男	あの海域より(II)
三瓶 光夫	玉響 28	浅倉 寛	形影(II)
春田真理子	scene I	滋田 明	熱帶植物園
野澤 里沙	夏の磐梯山	土屋 雅敬	あとかたー0202
鎌田世津子	黄色の習作(なにげない風景)	武田 律子	「現」作品9
安田 文夫	LIVE IN SHONAN	平田 清隆	無題(2)
須東 勇太	眩暈	山本 賢彌	おしゃぶり(1)
豊崎 旺子	TRAIL (II)	小田嶋紘子	金魚すくい
吉田 純子	81 circles I	柳澤 実穂	内へ・・・2002,7
柴田 豊	あの日の朝	中山 亜希	Unfathomable
小林 守	暗示	辻 由佳里	自分探し II

《立体》

折笠 晴美	光を放つ	豊島さち子	果てしなき対話－2002
糸田みづき	シメンソカ I	小山 祥吾	事物の根幹
渡邊 志野	面影の色	留守 玲	洗いざらしの記憶
針生 圓	budding	田邊 真樹	航路—雲式浮遊船バージョン一
中村 麻美	La La La	神代 良明	perspective
余呉映湖	躍り	金 鉢 淑	存在する空間のため
小松原朋子	なまぬるい流れに這うもの	河合 勇作	Migration— to the moon 2002
坂本 雅彦	船上模様	安室 三郎	夢
角森 昭収	経・溢	生越麻紀子	妊婦
中山 智介	空に続く地図	矢部 裕輔	大和の風
大川セイジ	不思議な豊穣の島		
前野 智彦	Jun. 6. 2002		
佐藤 潔	出現 II		
杉本 美子	Reproducible		
須山 欣朗	想		
荒井由紀子	2002.07.09		
中澤 務	INDUCTION		
高畠 裕幸	Choral 2		
渡邊 洋	mucous membrane “TSUKIHAE・III”		
富田 泰世	水の音		
増川 朋花	地熱呼吸		
三好 正人	Pinion—翁		
大工 公司	Flow with it. Be part of it. 6		
西山 和子	明けのカラス		
佐藤 英行	風が来るぞ急げ		
嶽 喜代子	再生		
齊藤 洋子	ゆうやけ		
峰岡 正裕	台風一過		

審査経過

《平面 立体》

前回に比べて平面も立体も、多少応募作品が増えたのは嬉しいことなのだが、展示可能の範囲から割り出された入選作品数がだいたい決まっているので、落選作品もその分多くなったわけだ。しかも結構レベルが高いときているので、これまでなら入選していたのに、と思われるような作品でも拾ってもらえないことが起こった。特に入・落の境目にある作品の場合には、審査員の賛否の微妙な差で決まるので、応募者には不満の残る結果となったかもしれない。

これはいかなる公募展でもそうなのだから、この展覧会だけを例外視することはできない。結構気になるところでもあったが、まあ、割り切って審査するほかなかったと思っている。そんなこともあってか、大賞をはじめ各賞の決定段階では、それほど意見の違いもなく、比較的スムーズに運んだのではないかと思う。

大賞の高梨裕理の「水面」は、お茶の枝によるものらしいが、単純なフォルムとこまやかな神経がすみずみまで行き渡っていて、じつに爽やかな作品となっている。特選の佐藤佳彦の「Trinity」は、ダイナミックな鉄の作品で、どことなしに手仕事の味わいを感じせるところもあって（ある意味では未熟さでもあるのだが）、印象に強く残った。

美術奨学会賞の辻眞由美の「ツタエル」は、ものの連鎖を示しているのだろうが、斬新な試みに見えたし、また近代美術館賞の松永明子の「時間の音」の方は、細工物的な感じがしてスケールは小さいけれども、彫刻をはじめて間のない（というより経験がたりない）若い人らしく、ものを「つくる」という喜びを率直に感じさせた。どちらも、これから可能性を印象づけたところが、評価されたのだと思う。

以上は立体部門の作品である。が、直接、現物の作品を搬入するこのような審査がいいのかどうか。つまり、他の方法はないのかどうかを検討する時期にきているのではないか、と思った。

次に平面部門であるが、準大賞の三田健志の「Perfect 8th」は、切れ味のいい作品だと思った。特選の高賀貴里子の「おしりちゃん」には、感覚の新しさと絵の新しさを、同じく特選の前田啓子の「とりこ」にはセンスのよさを見た。が、全般的に平面作品は、ある一定のレベルにはあるけれども、押しなべて個性に乏しく、マンネリ化した技法・技術に神経が傾き過ぎたものが多かったのではないだろうか。前回まで入選したり、あるいは受賞したことのある作家でも、今回選にもれたとすれば、そこらあたりのことをもう一度反省の意味を込めて考えてみる必要があるかもしれない。

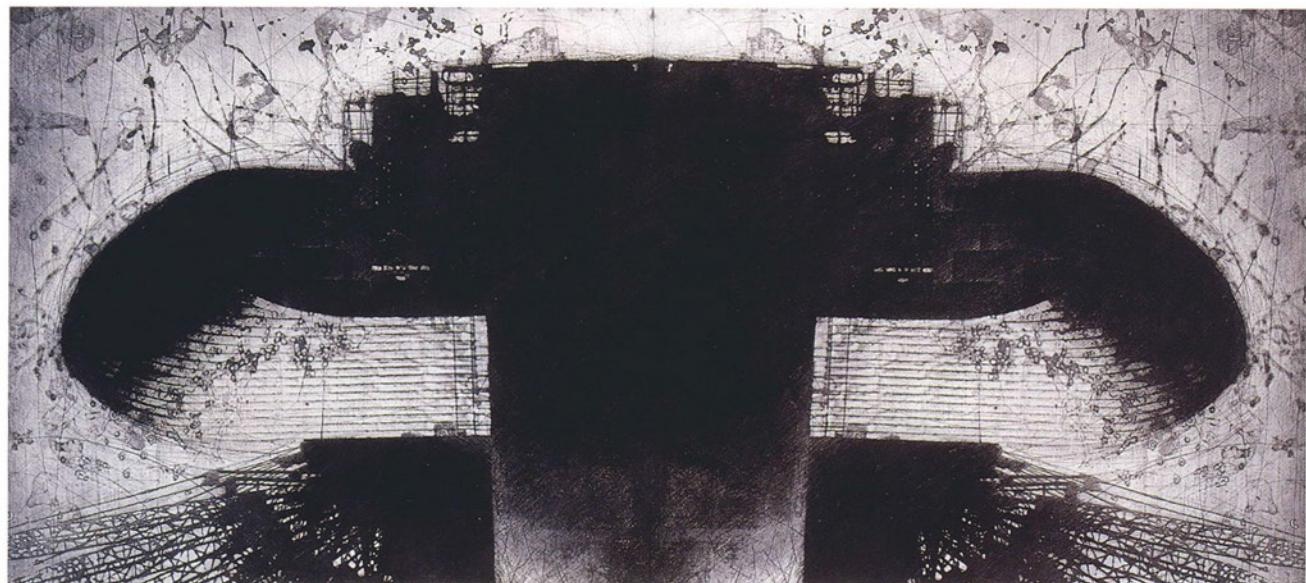
（酒井忠康）



【大賞】「水面」高梨 裕理

略歴 1970—東京に生まれ、横浜で育つ
1996—KOBTAKE工房修了
1998—同工房研究科修了
個展 1998—ギャラリースペース21（東京）
2000—ギャラリーじん（じん）（武蔵野市吉祥寺）
2001—ギャラリーAPA（名古屋）
ギャラリー4GATS（東京）

グループ展 1995~2000一二科展
1997—第33回神奈川県美術展 特選
1999—グループ展、ギャラリーフレスカ（東京）
金沢文庫称名寺芸術祭
2000—第36回神奈川県美術展
鶴ヶ島アートフェスティバル
2001—鶴ヶ島アートフェスティバル
2002—home visit、名古屋芸術大学ギャラリーBe



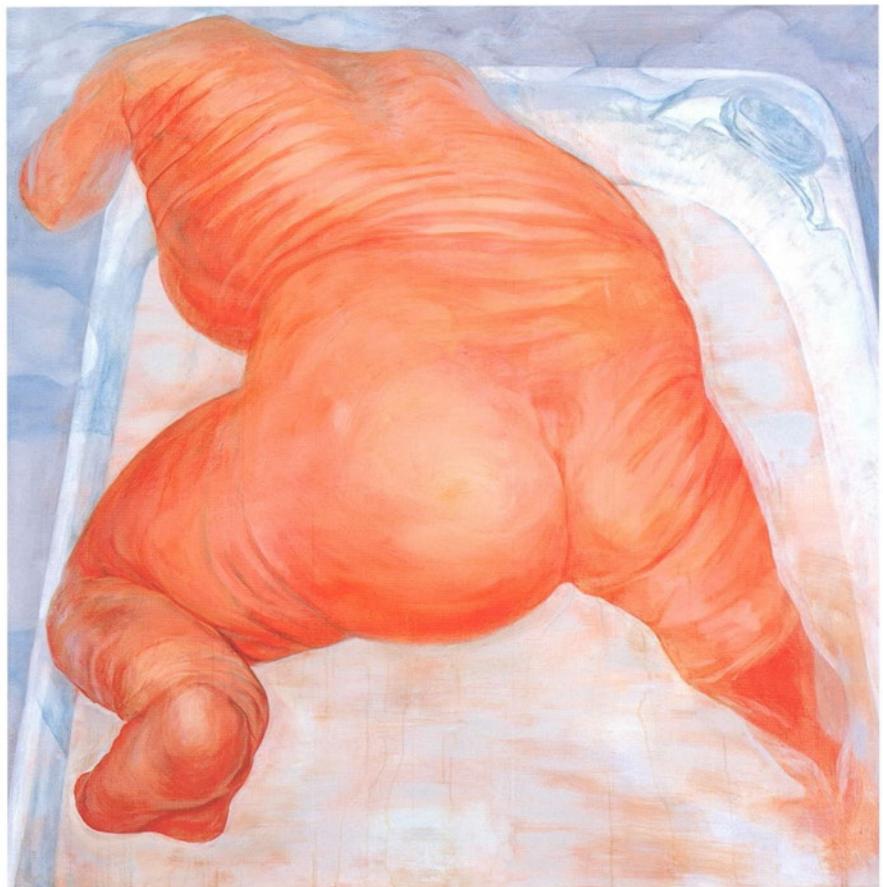
【準大賞】「Perfect - 8th」三田 健志

略歴 1979—広島県に生まれる
2002—多摩美術大学卒業
同大学大学院入学

グループ展 2000—第17回FUKUIサムホール美術展、準大賞
第15回国民文化祭ひろしま2000美術展、県知事賞
2001—全国大学版画展、買上げ賞
2002—グループ展、新宿パークタワー
建築展内企画展（京都駅、クンストハレ・ヒロシマ）
グループ展（横浜ガレリア・セルテ、せんたあ画廊）
国際交流展、シルバコン大学（タイ）



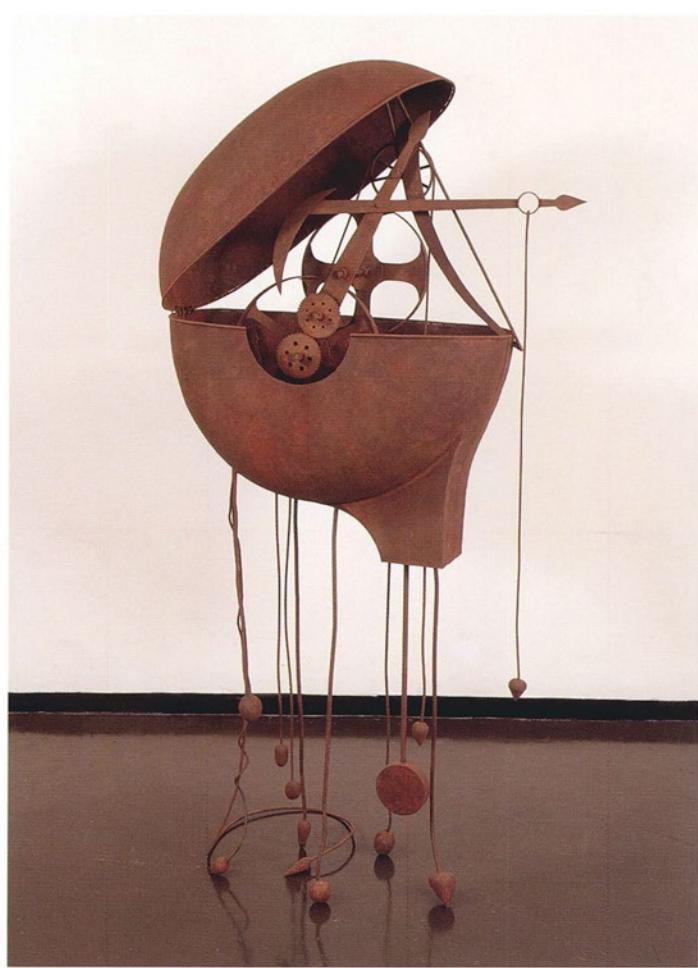
【特 選】「とりこ」前田 啓子



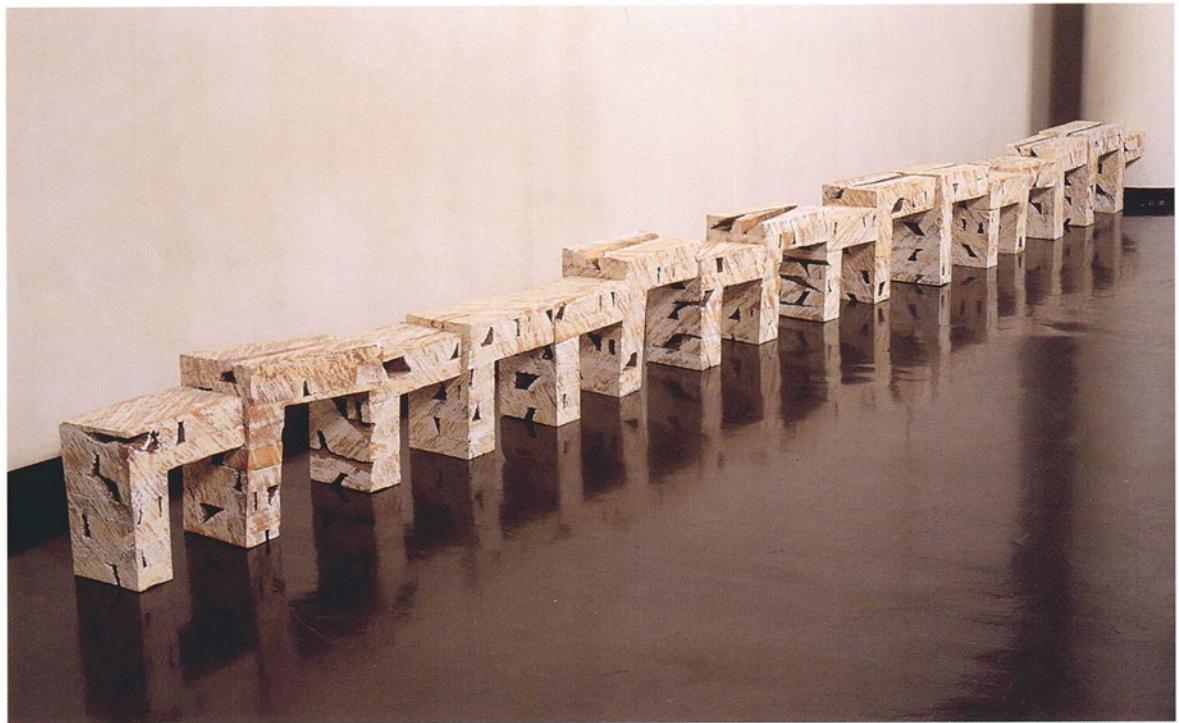
【特 選】「おしりちゃん」高賀 貴里子



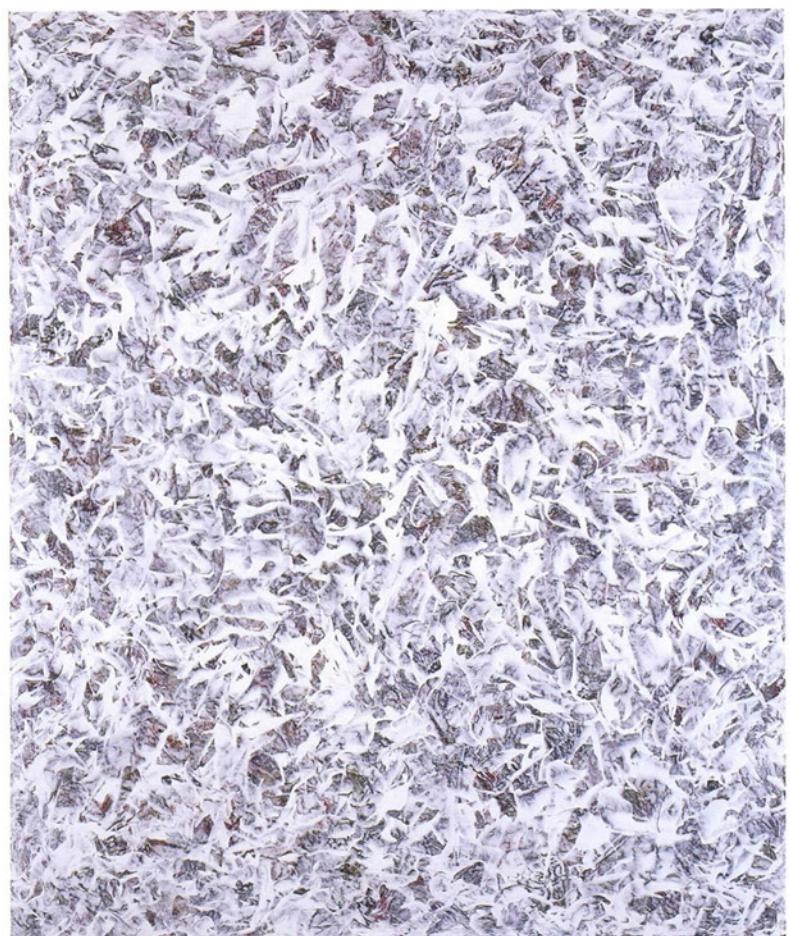
【特選】「Trinity」佐藤 佳彦



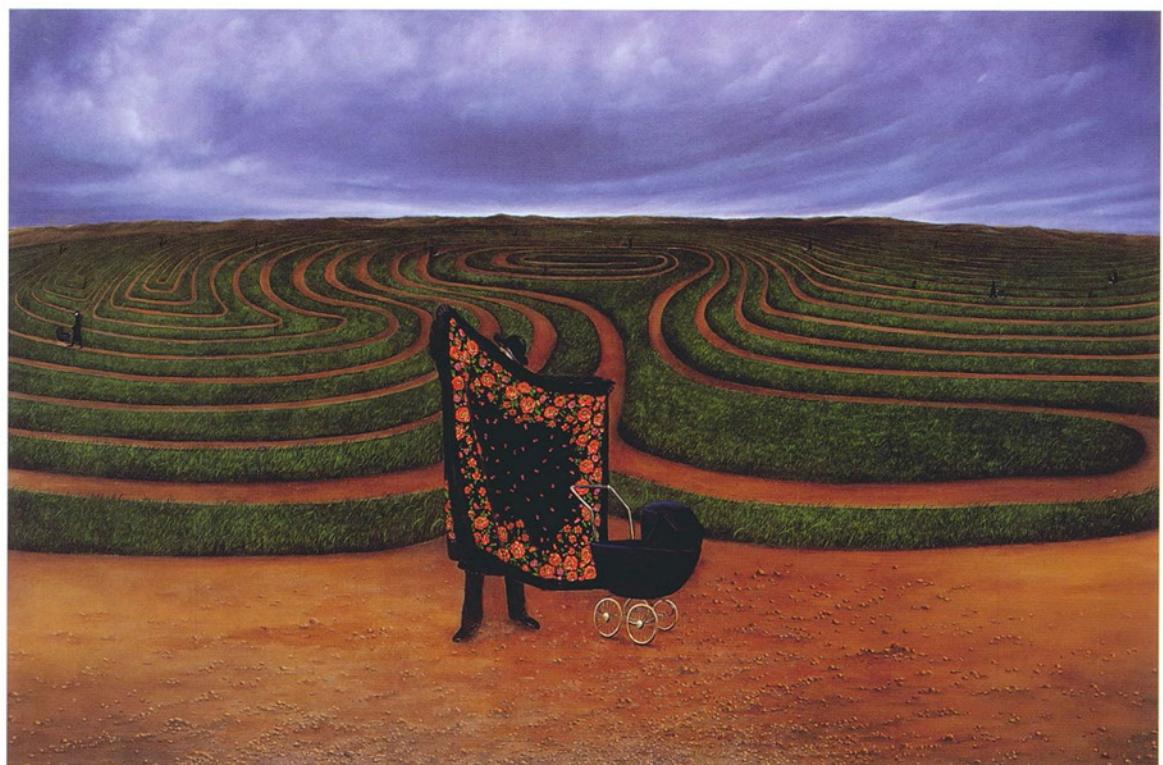
【県立近代美術館賞】「時間の音」松永 明子



【美術奨学会賞】「ツタエル」辻 真由美



【はまぎん財団賞】「作品I」大篠 弘子



【U氏賞】「不安な散歩1」榎本 香菜子

2期展

工艺・書・写真

受賞作品目録

《工芸》

大賞	三輪 博子	川崎市	河
準大賞	渡辺 和子	横浜市	月光さす蹟
特選	山田 欽也	相模原市	布目紫式部文鉢
特選	前原 祥子	横浜市	色絵金彩寒芍薬紋大皿と組皿
特選	古根 香	鎌倉市	白昼夢
特選	光岡 美智子	大和市	有線七宝花瓶・紙波
美術奨学会賞	糸井 惣四郎	逗子市	縄文譜一屋久鹿三耳壺
美術奨学会賞	野口 俊子	川崎市	薔薇夢幻
県議会議長賞	植松 次男	平塚市	風・大地

《書道》

大賞	栢木 郁子	大和市	田中冬二の詩
準大賞	浅岡 昌敬	茅ヶ崎市	王慧詩
特選	塩沢 郁子	横浜市	舞姫の
特選	河又世津子	川崎市	しらなみの
特選	庵 利枝子	横須賀市	周聖培詩 采菊
特選	東山 勉	鎌倉市	李思衍詩
美術奨学会賞	中町 紀子	横浜市	陶淵明詩
美術奨学会賞	石原 保子	伊勢原市	明石の瀬戸

《写真》

大賞	嶺岸 良太	平塚市	far away -いつか置いてきたもの-(5枚組)
準大賞	渡辺 富司	横浜市	祭りの少女
特選	原田 健児	横浜市	花と遊ぶ (3枚組)
特選	榎原 俊寿	湯河原町	動物讃歌 (3枚組)
特選	井上 喜和子	横浜市	Viva, Brazil (2枚組)
特選	山田 實	横浜市	黄山払暁 (3枚組)
特選	齐藤 ふさ子	横浜市	残像の街 (3枚組)
特選	関口 利行	横浜市	乱れる羽根車
美術奨学会賞	今野 良一	横浜市	アフタヌーン
美術奨学会賞	佐藤 幸悦	横浜市	早春譜

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。
※市町名は現住所です。

入選作品目録

《工芸》

池田 節子	藍絣 ウエーブV	高橋 英昭	伊羅保釉角皿
石成 富栄	泥彩練上大壺 腺に帯	安藤 直行	黒釉変長壺
小竹 章	刷毛目楕円皿	府川よしあ	彼方へ
坂本眞理子	天の川	遠藤 寿子	惜夏
香取 孝彦	銅花筒 登立奮 (triple)	梅田 千晶	層
鈴木 豊	三色練上壺	鎌田 知幸	花吹雪 水指
土屋 仁男	白化粧吹付花生 山波	山田 陽子	刷毛目 組鉢
山田 真	蒼釉多面花器 No.5	清水 晴子	四季
宮田 麻緒	時の記憶	小林 紘子	大鉢 (アマリリス)
石川ヤイ子	日本刺しゅうくじやく	鈴木しづこ	樹海の朝
北垣 幾子	紅葉乱舞	広谷 幸	陶器の灯り
小林 正光	WA	猪本 淑子	備前大徳利
西山 義彦	輪花胴紐柳目鉢	工藤俊太郎	備前壺
増田かよ子	宙(そら)	翁 長始	油滴茶碗
小田中 藍	モノ聞き山	後藤 弘吉	波・結晶釉
鈴木 一夫	木の葉天目鉢	釣 敬子	さくら
前澤 秀知	斑釉禾目皿	高橋 征子	二重壺透かし彫り花器
久保寺春男	備前壺	阿竹 見子	鉄赤角花器
石澤 和幸	乾(かん)	伊藤久仁子	無題
大槻 洋介	Shell	郷田 和子	丸文組鉢 5ヶ組
服部 純	乾漆 花器	山口 敏子	練上手壺
牧野 眺一	作品A	荒木 光子	萩大鉢
今林三恵子	旅立ち	木寺由布子	杢目金三足香炉
中富 千世	野草染墨色の小箱	木澤 宏子	サポートー「オーレ」
小川 健子	残照	西前 力	備前壺
金子三女子	野草染嵐山の紅葉	大塚美智子	磁器手びねり上絵銀彩 長方平組皿 沈丁華図
田辺美枝子	大賀蓮	上田真由美	天花の主
山崎 直子	絵変わり組み皿(5枚)	松井 敏保	結晶釉深鉢
三上 光敏	備前紺襷広口花器	能代眞由美	Yobi・tugi
堀口 成依	人生模様	松本 裕代	ウェーブ'02
君島 六郎	色絵彩文扁壺	佐藤雅一郎	若田 砥 まどか
栗本 玲子	手びねり磁器 具須吹墨「木蓮」大皿と組皿	花形 澄子	Blowing the wind
中島智恵子	バラ絵銘々皿(5枚)	小林 雅子	夏の終わり
須藤 義明	叩き信楽壺	天野 奈迦	紐飾
太田トワコ	青海波	坂本采季香	焦熱
井上 心生	咆哮—やすらぎを!	稲葉里き江	記憶
山口 浩二	青内被モール盛器	狩野サキエ	きはだ
内野 勝雄	清白磁花入	福本 義彦	焼締壺(庸)

《書》

尾形 政子	萌芽	小林 比路	支公禪院
曾根原 緑	絹縫り飾り布	宮崎嘉代子	杜甫詩 飲中八仙歌
川合 都美	鐘は鳴る	石原 杏子	俳句四句 春夏秋冬
羽鳥 恵子	彩泥象嵌線文角鉢	矢島 初枝	花の色は
深澤喜代子	草木ローケツ染 四段引出	四季 茜歩	邊貢の詩
渡辺 稔浩	PLATE	今村 健一	何景明詩
大丸 洋子	到来	中村すみ恵	客邸中秋對月
岩井 尚子	タピスリー ガーデニング	山下 雄右	和歌一首
寺本沙香江	象牙の聖人	池上 澄子	万葉集歌
鶴田 真澄	木洩日の下で	木多 良子	白銀の
後藤 知恵	群がる青	池上 好子	秋草
大野 恵一	抹茶碗 虹彩釉	安藤 憲子	かな
水橋さおり	蛸	浅間 静江	小田原民謡
岡崎まりこ	夜想曲	山田 律子	仮名
赤井 哲男	らせん	阿部 裕子	晶子のうた 二首
		田中 侑子	小倉百人一首より 二七首
		秋山多賀子	臨 寸松庵色紙
		大泉 桂子	たか女の句を
		太田 栄子	臨 香紙切
		中村 咲子	和泉式部 臨書
		片山 裕子	山時鳥
		大泉 菊江	さやさやに
		吉村武次郎	李昌祺 二首
		菅原 博	清乾隆皇帝 七情箴
		新井 陸郎	王昌齡詩 二首
		片山 君江	白居易詩 七律
		宮川 勝美	桃溪
		川手 敬湖	新古今和歌集の歌 三首
		小林 峰	初雪
		小島ミツエ	葱坊主
		棧敷 繁穂	古今和歌集 秋の歌 八首
		豊田 路子	小島切 臨書
		青野 有美	甲骨 二句
		登坂 嶽	道徳経 六十二章
		川名 猛夫	白居易詩
		田丸 青蘭	五言古詩 和楊逸人桃林遷居三作
		赤穂 恭子	花の色は
		伊藤 由紀	古今集より

筒井 節子	山家集より	梅田 昌子	茨木のり子の詩
佐藤 青香	和泉式部集より	上野 春海	岩谷時子の詩 夕陽は赤く
井上 澄江	古今和歌集より	柴本 典子	西条八十の詩 くつのいえ
吉田智世江	百人一首より	深川 静燕	高橋次夫の詩 道
上永 弘子	古今和歌集より	福本 泰子	西脇順三郎の詩 拉典哀歌 Ambarvalia
菊池 芳雄	陸棟 文賦	後藤 美華	井上靖の詩 碇石
長野 文子	杜少陵詩	伊奈 美紗	春の恋うた
新園子	陳文述詩	沖田 春江	八木重吉の詩 素朴な琴
近藤 美枝	劉基詩	土屋 晋子	草野心平の詩 蛙
高橋富美子	吳蘭雪詩	榎本 正子	淑男の詩 まどろみ
土屋 洋子	厲鵠詩	八木 静香	雪の降るまちを
鶴川 律子	徐洪釣詩	山本 領子	和辻哲郎 古寺巡礼より
中村 曜子	王錫詩	相馬伊佐子	石を見よ
藤野 静子	程可則詩	小川 憲子	北原白秋の詩 薔薇二曲より
片平 堯子	村山槐多の詩 薄き雨	杉森 喜代	千家元麿の詩 海より
大木 明子	神との対話	飯島 輝義	曹植詩 穹侯引
青野 直子	俳句	杉森 鈴代	万葉歌抄
土屋 郁英	美術館の午後	神藤 莊松	漢詩 梅花驛
堤 智子	大貫裕司詩 風花	小山カヨ子	鶯湖舟中瓶月
佐野 幸代	日守むめの句	渋谷セツエ	王漁洋詩 姑蘇懷古
山本 清子	小林妙子の詩 庭面	鈴木千恵子	奉和聖製從蓬萊向興慶閣道中留春雨中春望之作應制
池上百々子	八木重吉の詩 感触は水に似る	鈴木 宏次	十首秦吟
和田 和江	清岡卓行の詩 冬の桜	石関富士子	劉英詩 宝峰棲看沈啓南画因懷画中詩人存沒
小見 正子	多田智満子の詩 薔薇宇宙	池田 昌美	茹湜
森田にいな	かまくらが好き	木下 元子	蘇臺
依田 常子	能登の月	中村 起世	張少弋詩
青木 正義	柴野民三詩 蟲	西澤 豪	沈廉詩 入連雲棧
小林 千幸	星空のページェント	三國喜美代	崔國輔詩
井上 綾子	棟方志功の歌	田端 妙子	宗李潭詩
指簾 登美	日本沙漠	小原 昌子	劉基詩二首
高橋 秀栄	山小舎の灯	佐々 敦子	南山田中行
宮地 晶子	那珂太郎詩集 音楽より	早川 範子	古今和歌集 紀貫之の歌四首
松田 紀子	濱本久子詩	三上 光敏	王維詩 送平淡然判官
古屋恵美子	小野寺逢仙の歌	添田 勝子	碧城
平出 節子	三宅惟子の歌	柴田 房枝	王維詩
平井 一未	俵万智のうた	神山嘉代子	王維詩
廣川 伸一	短歌	浅見 稔子	岑參詩 西掖省即事
馬場 陽子	田中昭洋の歌	村上 信子	杜甫詩

《写 真》

早瀬 崑二	禪語	平松 啓一郎	冬林
佐藤 柚処	李商隱詩	青木 静子	疾走
飯田 政子	良寛書簡	米山 悅朗	朝日とともに
市川 悅子	秋	山口 昌明	ジャンプ
阿部 洋子	朝顔の花	鈴木 喜久郎	生存のひとこま
成田 敏子	風の手のひら	古郡 和敏	祭りの日
川神 寛子	むかしへや	文野 克成	大家族
内田 洋子	遠くに見えるのは	渡辺 晋	惜春
米澤千恵子	汽車を待つ	古澤 直代	ペットボトル
下門 芳子	暁	今井 由佳	espace—temps I、II、III
門倉 裕子	別易水諸公	北原 實	冬將軍(2枚組)
安地 和子	華龍翔詩	庄司 精一	前進あるのみ
中居 英子	賈島詩 早秋寄題天竺靈隱寺	高野 好旦	遙かなるトルコの微笑み(5枚組)
木村 清茂	東宮春(隋)煬帝	市川 正	祀りの日
松尾 廣子	杜甫詩	三浦 京子	可愛い孫と
菊島 豊子	李白詩	大友 洋子	フェイスペインティング(3枚組)
菱田 恵子	杜甫詩	牛木 実	水中花
杉浦 町子	王維詩	河村 伴江	次世紀に残すな!(3枚組)
橋本たま子	白楽天詩	大畠 礼典	マイキャッスル A・B・C・D
天形 紀子	杜甫詩	榎本 陽一	秋霧
鈴木 文子	李白詩	武田 幸容	光のサークル
渡邊 優子	方朝詩 三峽間	妻木知加雄	バス・ストップ
和田 澄子	司空曙詞 酬李端校書見贈	高木太三郎	夕暮の窓
木村 晴雲	王守仁詩	山初かおる	黄色い花
加藤 民子	劉嗣綰詩	庄司雄一郎	燐紅
山野 妙子	送魏萬之京	山本隆太郎	表情
井澤 洋子	下終南山過斛斯山人宿置酒	伊藤 忠	夢幻
長澤 公恵	岑參詩二題	佐藤 忠	朽ちる時
茶木 静萌	木末亭作	土井 満	無我
明石 清子	だいしらず	荒 光男	港の光
松本 亘正	陶淵明詩	大工原吉勝	霧景
		杉浦 實	葛西の夕映
		高橋 礼子	出番前(2枚組)
		遠藤 陽義	名残の舞(3枚組)
		有賀 由一	神盃の日
		武井 金史	エサの粉撃
		高橋 稔郎	イカのマーチ
		加藤 肇	水辺の春

本間 英夫	清純な宇宙(3枚組)	大出 光信	JAZZ MEN(3枚組)
小林 恒	漂流	根岸 邦江	視線を感じて
岩沢 幸男	曙光	鈴木 安廣	満月山染
高木満喜子	透明の刻(4枚組)	下井 良一	赤い禪の女
古塙 政由	街角	秋本 富男	待つ
立田 幸生	お母さんといっしょ(3枚組)	小泉 雄治	川辺の彩り
高梨 文夫	木の葉の様に	田辺 和郎	平成の静物たち(半身の図)Ⅳ(3枚組)
田中 久巳	曲線美	南 幸子	日輪
鈴木喜三郎	少年	荒井 稔	胎内(3枚組)
長谷川雄二	氷冠(グリーンランドにて)	砂金 賢司	ルピナスの歌
桐畠 政義	祭りの思い出(3枚組)	金子 直人	風霜の造形(3枚組)
村山 章	朝靄流動	鈴木由紀子	つば競り合い
高村 藤雄	ゴール後、力つきて	馬場 純子	銃弾の貨車(1)(2)
保田 繁子	大内宿	鈴木 綾子	モロッコの革染職人Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
津田 祥夫	ニッポン・ニッポン	荻野 高秋	フーガ黄2002
日下 晴代	躍動冬陽	柴田 恒司	孤独
岸 豊	きづな	木内 敏行	無題
栗栖佐保子	スプリング	鈴木 康代	水面に浮く桜
鈴木 正夫	稻村ヶ崎の夕暮れ		
中山 亨	静寂湖畔		
白井 孝	ヨコハマ蟹氣楼(1)(2)(3)		
武藤 安弘	なぎさの「図形」①②③		
安藤 行宏	空(パリ)①②③		
商家 訓	ブラジルが燃えた日(5枚組)		
御園 秀雄	ロール模様		
福田 幸子	女瞳私(ステンド・グラス)(2枚組)		
原田 千種	深山の聖地		
道山美年子	さざ波		
木村 久子	朝の体操		
高山由美子	真夜中のショータイム		
相川す希乃	ふれ愛		
長澤 和正	朝霧燃える		
佐藤 幸一	夏へ(3枚組)		
松本 和美	霧氷の星		
中川ケイ子	ファンタジックなグラス(2枚組)		
松本 勝治	川辺に咲く		
神野 愛子	ポストは健在		
内山 正男	ダイヤモンドダスト		

審査経過

《工芸》

審査にもいろいろあって、ただ黙々と票を入れ、ほとんど会話無しに終わるものから、徹底して論議し、入選ラインを細かく論議し決めて言うものまで、様々である。

今回の審査は比較的よく論議することができ、よりよい結果を目指して、審査員全員が力を合わせたのではないかと思う。

まず入選作を決めるとき、投票の結果以外に、工芸作品としてよくできていると思われるもの3点について改めて考えようとの提案があり、論議の末入選と決めた。

また受賞作選定の際も、候補作品29点について細かく論議し、かつての受賞歴や、制作歴、これまでの作品の傾向（今回、新機軸がでているかどうかなど）などなど、当該作がいかなる位置にあるかが検討された。

そうして9点の受賞作が決められたわけだが、大賞の人形作品を筆頭に、染色、陶磁器、七宝、木象嵌、竹工といった具合に、様々な分野に目配りの行き届いた結果となった。もとより素材別の網羅ということが先にあったのではなく、結果としてそうなっただけなのだが、それだけ豊かで変化に富んだ活動がふだんから行われているということであろう。

大賞の三輪博子「河」は、彫刻との分別がなかなか難しい人形という分野の自律性に一石を投ずる優作である。塊としての抽象と人体の具象が快いバランスで融合し、清新で動きのある、それでいて清潔な安定感とでもいった感覚に満ちた作品となっている。こうしたフォルムと素材感の表出、これは単なる純粋美術としての彫刻にはないものだろう。

準大賞の渡辺和子「月光さす蹟」は、七宝によるものだが、これまでの七宝という素材に対するアプローチの常識を超えており、七宝が専ら作者自身の激しい内面ないしは心象風景表現の手法に転換されている。現代の工芸とはこうしたあり方を求めて成立してきた。

他の受賞作もそれぞれにしっかりとした素材に対するアプローチ、表現を見せており、これからもより一層の発展を望みたい。

（金子賢治）

《書》

神奈川県は全国的に見ても有数の書人口をかかえるが、書部門の応募数が23点というのは非常に少ない感じがした。わたしも過去、いろいろな県展に関わったが、総じて書は1,000点規模である。もっとも他部門の数字を見ても大体、同じように少ないので、大都会としてさまざまのチャンスに恵まれている地域としてはやむを得ないのかもしれない。

また、出品作の書風の幅も漢字、かな、近代詩文書に集中して狭く、大字書、前衛書、篆刻・刻字（このジャンルはなぜか規定で受け付けない、となっている。）等の出品がなかった。どういう事情で、このような結果になったかはわたしには審らかでないが、より開かれた県展にするためには、さらに運営方式や、PRについても工夫の余地があるのではないだろうか。

さて、審査は漢字系の川口流坡、丹羽蒼処（審査委員長に互選）、春山右濤、かな系の鈴木春子、柳沢弘子、近代詩文書（調和体）系の船本芳雲、書評論家の田宮文平の7名で行った。

はじめ全作品を一覧し、その後、書風や会派が重ならないよう混合してもらい、1点ずつ出してもらって審査した。7名全員が、1点から5点のカードを持ち、その表示を係りが集計してすすめた。その結果、26点が2名、25点が2名、24点が3名、23点が9名、22点が22名となり、ここまで38点を受賞候補とし、これをさらに類似書風の優劣を比較検討しながら、さらに16点、8点へと絞込みを行った。

この最終の8点を5段階評価で投票したのが、受賞結果である。この際、是非指摘しておかなければならぬのは最終の絞込みの躊躇、念のため誤字脱字の有無を調べたところ、2点については問題ありとの判定がくだり、惜しくも上位入賞からはずれた。出品者として、今後、十分に注意して欲しい点である。

大賞となった橋本郁子「田中冬二詩」は、2尺×8尺の縦形式に2行に書いた。足摺岬、知床半島などの文字は簡朴平明で詩情のあるものであった。港町ヨコハマらしいモダンさが受けたと思う。

準大賞の浅岡昌敬「王慧詩」は、2尺×8尺の縦形式に3行の行草書で、練度の高さで評価された。

特選は4点である。庵利枝子「周聖培詩」は、2尺×8尺

の縦形式に3行の行書で、純白の空間を生かして清々しい。河又世津子「しらなみの」は、横形式に24行の小文字かなで、連綿と散布のかなの特質を生かした。塩沢郁子「舞姫の」は、前者とは対照的な現代かなで、メリハリの利いた展開がよい。東山勉「李思衍詩」は、2尺×8尺の縦形式に4行で、個性的なスタイルが評価された。

美術奨学会賞の石原保子「明石の瀬戸」は、2尺×8尺に3行の大字かなが淀みなく構成されている。中町紀子「陶淵明詩」は、3尺×6尺の縦形式に7行の多字数を一貫した。

神奈川県展の書が、21世紀に多様に発展するよう心から祈りたい。

(田宮文平)

《写真》

地方の時代と言われて久しい。その中にあって「県展」というのは極めて重要だと言わざるを得ない。県の特色をもっとも端的に表すのは文化・芸能だと思われるからである。特に<写真>においてはいまや誰もが簡単に手にすることのできる表現手段である。当然、老若男女、多くの県民が「いま」を表現する上でこれほど格好な表現手段はないだろう。一方、国や地方の単位に対極する形でいまや「グローバル化」がさかんに叫ばれているけれど、これは単に垣根を取り払えばいいというものではないだろう。地方あるいは地域の歴史・文化が土台にしっかりと認識された上での話であって、自分たちの日常生活が核にあってこそその発想が意味を持つと思われる。その意味からも表現手段としての<写真>は、これからますます重要と言わざるを得ない。

第38回神奈川県美術展<写真>の出品情況は、257人から859点の応募があり、昨年に比べ応募者数で8人(3%)、応募点数で50点(6%)増えたそうだ。今回はじめて審査に参加させていただいた、想像していたより正直言ってやや少なく思われた。それは神奈川県には写真愛好家が多く、歴史的にも活発な活動があったからにほかならない。もちろん基本的には数が問題ではなく、内容であり、質である。で、先に結論から言

ってしまうと、こちらは想像していた以上に内容が豊富で、スナップあり、風景あり、静物あり、女性写真あり、スポーツあり、動物あり、祭りや行事ありで、被写体に特別な片寄りはなく、内容的にも技術的にも質は高かった。

審査はまず、審査委員長に江成常夫氏を選出した後、机に並べられた全出品作品に対して、審査員1人あたり20票を投票。その後も何回かの投票を繰り返して、最後に大賞(1点)、準大賞(1点)、特選(6点)、美術奨学会賞(2点)の候補作品、合計10点に絞り込み、ここからは話し合いで決定された。

今回大賞に決まった「far away –いつか置いてきたもの–」嶺岸良太(平塚市)は、厚手の印画紙にプリントされた5枚組のモノクロームであった。砂時計を眼前にかけた子供、アルバム、手の上の貝殻、海岸をバックにしたガラス瓶、バイオリンのケース(と思われる)に生けられた花で構成されていた。その思い出深い情感をたっぷりと含んだ作品はしっかりとプリントされ異彩を放ち、ほぼ満場一致で選出された。

また準大賞となった「祭りの少女」渡辺富司(横浜市)は、大賞作品とは対照的な作品で、顔を赤く染めた少女をストレートに捉え、カラフルで、力強く、迫力があり、見事なポートレート作品であった。

特選の6点「黄山払暁」<3枚組>山田實(横浜市)、「残像の街」<3枚組>齊藤ふさ子(横浜市)、「乱れる羽根車」関口利行(横浜市)、「Viva, Brazil」<2枚組>井上喜和子(横浜市)、「動物讃歌」<3枚組>榎原俊寿(湯河原町)、「花と遊ぶ」<3枚組>原田健児(横浜市)は、それぞれがそれぞれの思いをしっかりと表現した力作揃いだったが、6作品中5作品が結果的にではあるが組写真であった。美術奨学会賞の「早春譜」佐藤幸悦(横浜市)、「アフタヌーン」今野良一(横浜市)は共になにげない日常の一瞬の光景だが、特選に内薄する作品である。

(河野和典)

《工 芸》



【大賞】「河」三輪 博子

略歴 1941—中国、旧満州に生まれる
1962—武蔵野美術短期大学工芸工業デザイン科卒業
個展 1987—駿府博物館（静岡）
ギャラリー・ムーブ（茅ヶ崎市）

グループ展 1980—第16回神奈川県美術展初入選
1983—日本現代工芸美術展初入選
日本現代工芸美術展神静会展 記念賞
1984—日展初入選
1986—第22回神奈川県美術展 美術奨学会賞
カナダ・バンクーバー市展 招待
1987—「グループもえぎ」創作ひな人形展、横浜そごう百貨店
グループ展、藤沢さいか屋
1994—東玉重陽節句展
平安建都1200年記念展、京都文化博物館
2001—グループ展、都筑阪急百貨店



【準大賞】「月光さす蹟」渡辺 和子

略歴 1942—宮城県に生まれる
1976—七宝を始める
2002—現代工芸美術家協会東北会員となる

グループ展 1992—第18回東北現代工芸美術展初入選
2000—第26回東北現代工芸美術展 仙台市長賞
第36回神奈川県美術展初入選
2001—第27回東北現代工芸美術展 会友賞
第37回神奈川県美術展
第10回河北工芸展 岩手県知事賞
2002—第41回日本現代工芸美術展初入選



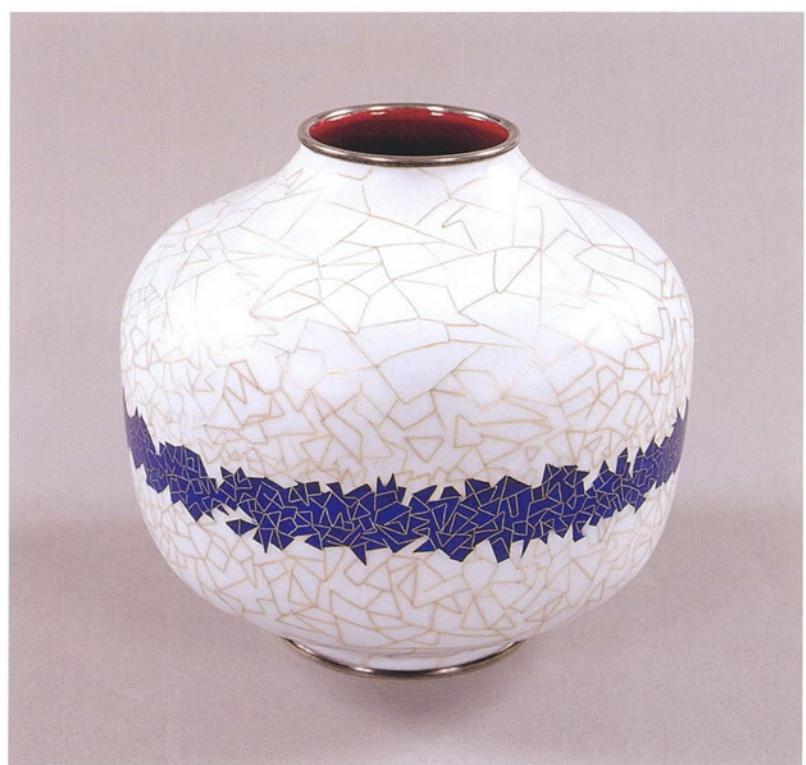
【特 選】「布目紫式部文鉢」山田 欽也



【特 選】「色絵金彩寒芍薬紋大皿と組皿」前原 祥子



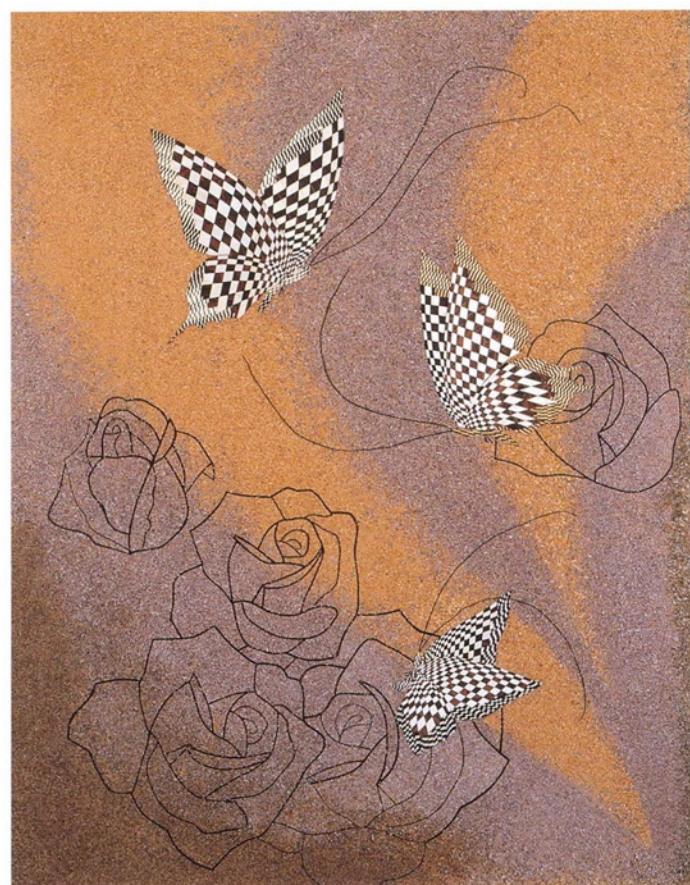
【特 選】「白昼夢」古根 香



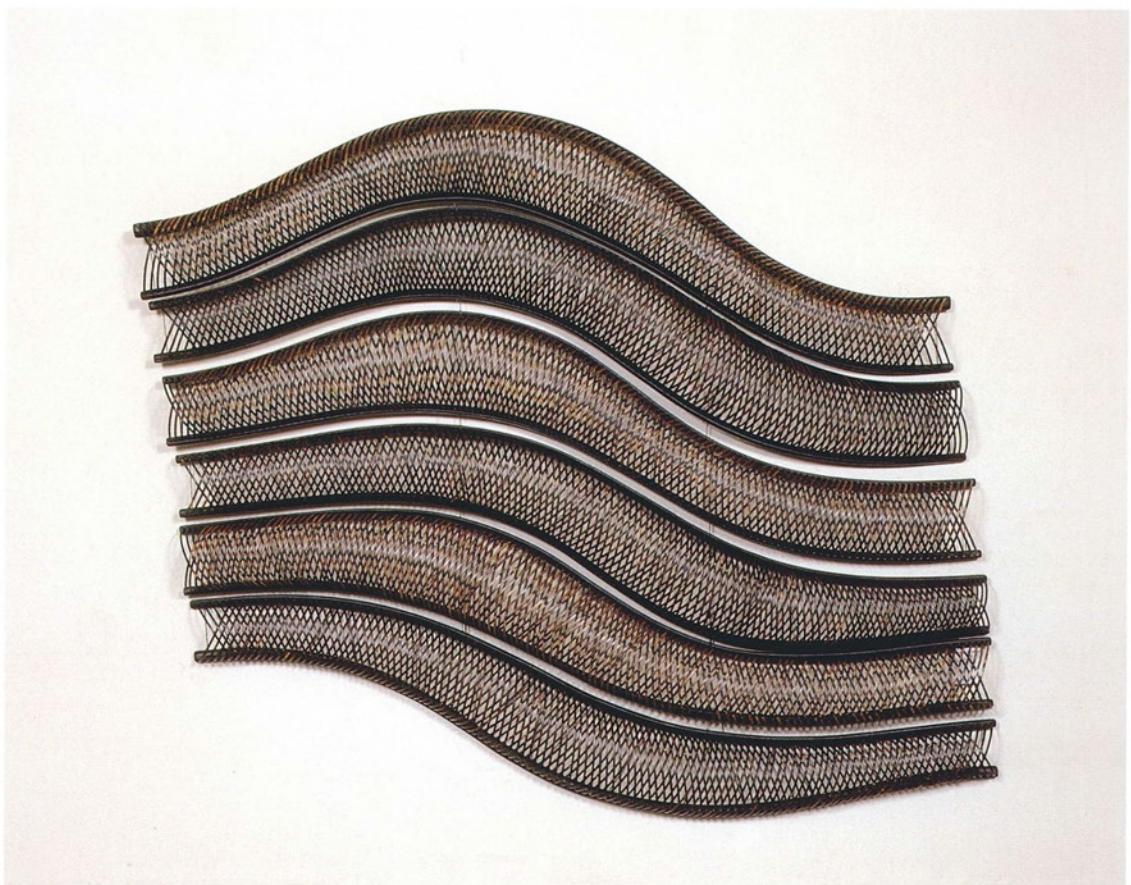
【特 選】「有線七宝花瓶・紙波」光岡 美智子



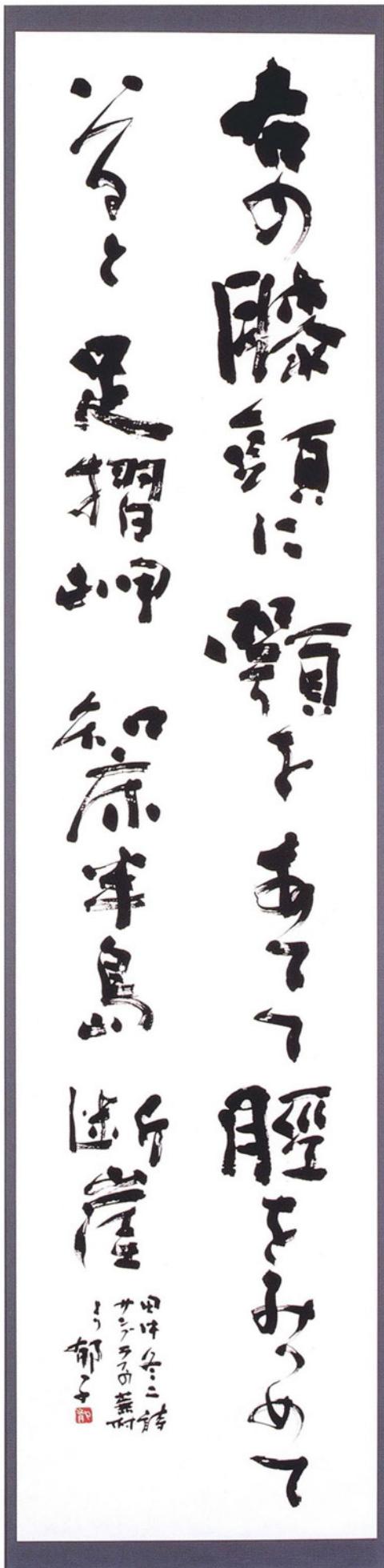
【美術獎学会賞】「縄文譜一屋久鹿三耳壺」糸井 惣四郎



【美術獎学会賞】「薔薇夢幻」野口 俊子



【県議会議長賞】「風・大地」植松 次男



【大賞】「田中冬二の詩」栃木 郁子

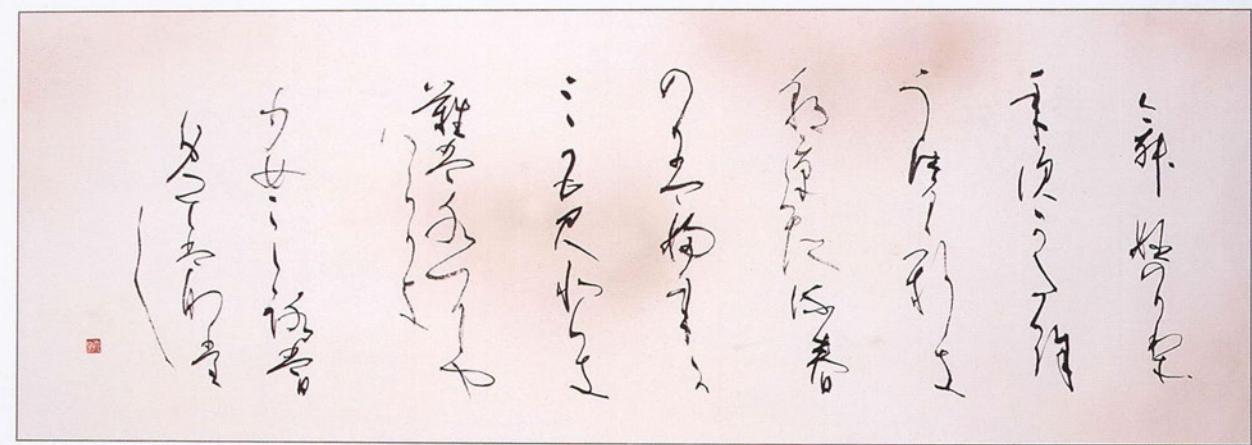
略歴 1997—大和市文化祭公募展 教育委員長賞
1998—第50回毎日書道展 秀作賞
1999—第51回毎日書道展 毎日賞
大和市文化祭公募展 教育委員長賞
2000—第52回毎日書道展 每日賞
第35回記念高野山競書大会 記念大会賞
大和市文化祭公募展 市長賞

溪流繞峻巒一章一卷不是沙鷺注水傳水底是井邑文石
無歲旱山根漫塵土雀鳥鳴轉色湖涸安所極冰花愛
明爭強凌空難即可成蹊笑人一笑似相識 王慧詩書

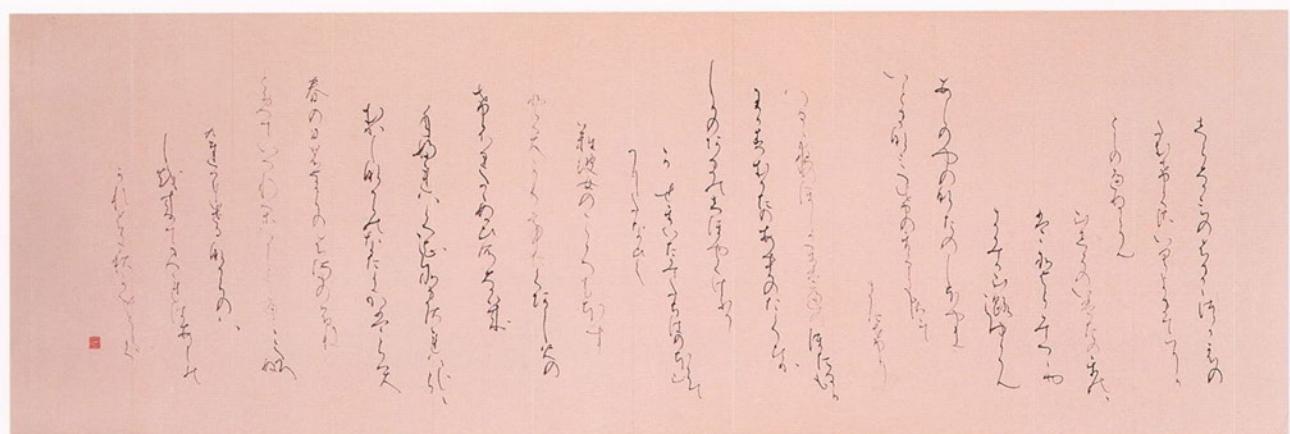
王慧詩書

【準大賞】「王慧詩」浅岡 昌敬

略歴 1986—川口流坡に師事
2001—第37回神奈川県美術展初入選
現在 読売書法会幹事、謙慎書道会理事



【特 選】「舞姫の」 塩沢 郁子



【特 選】「しらなみの」 河又 世津子

高秋凜風色百草
遙盡黃古如彼東籬葉
參差羞衰露光
早之不為猶後也
顧我觴杯第不寄事
仰視歸鳥翔會
心此未間獨坐以徜徉

玄默嘉祥
林鐘之晦

蒼潤書

周聖培詩采菊

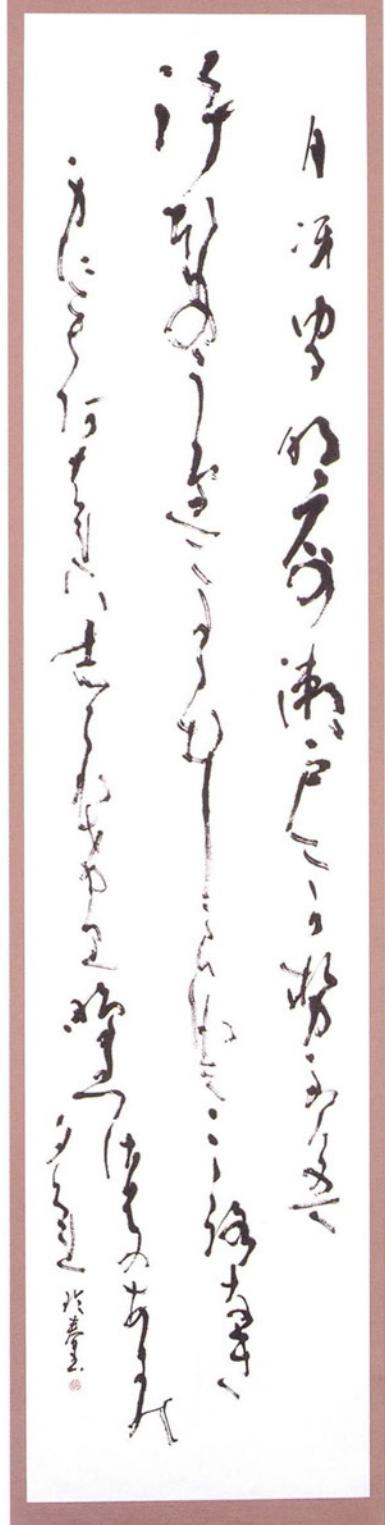
周聖培詩采菊

【特選】「周聖培詩采菊」庵 利枝子

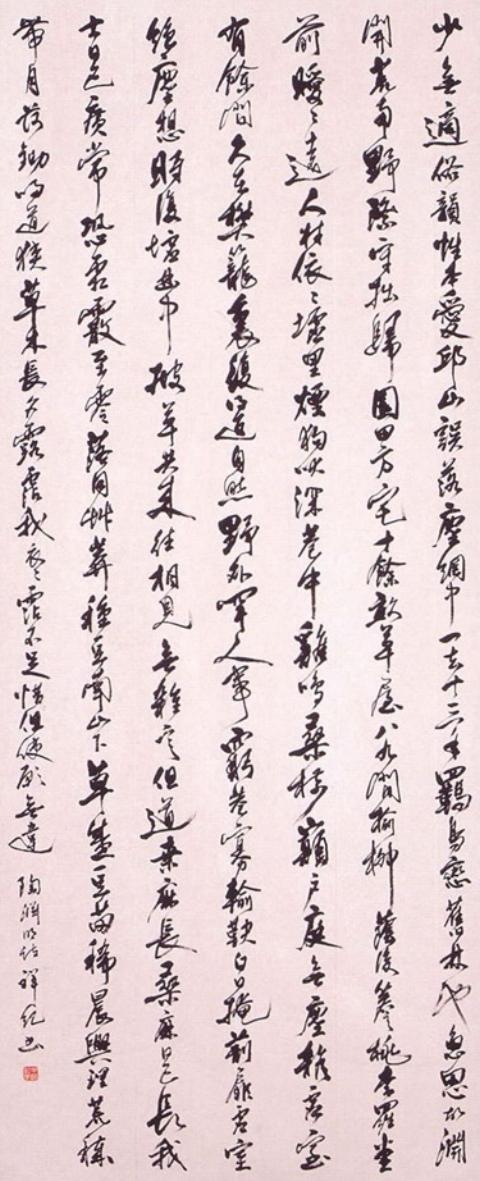
白頭老翁鬚垂頸
牽孫與掌摩孫頂
少年八十無恤
攬稚童圍爐
大年八十
穀未熟今年飛霜先殺
裁出
算錢疊
猶嘆慶今年錢疊無餘
家謝老翁將發去深下口
不能語叟子老
病惟一重獨覺寒
夜深西窗獨自謀
春縣更誰租正打頭
李思衍詩石微書

【特選】「李思衍詩」東山 勉

月夜の水の瀬戸に一葉をうき
さかうきよしの水の瀬戸に一葉をうき



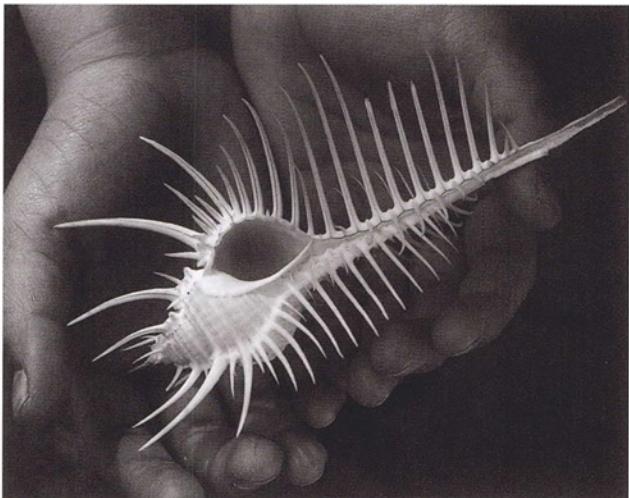
【美術奨学会賞】「明石の瀬戸」石原 保子



【美術奨学会賞】「陶渕明詩」中町 紀子

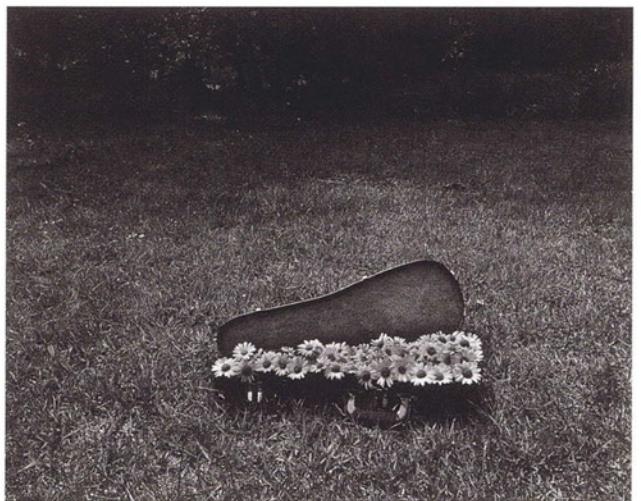
陶渕明詩
中町 紀子

《写 真》



【大 賞】「far away —いつか置いてきたもの—I～V」
嶺岸 良太

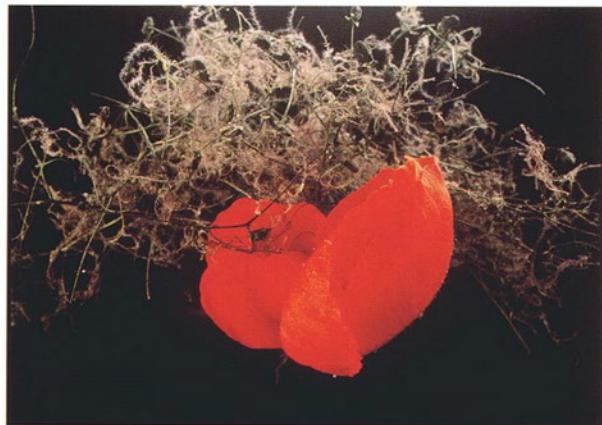
略歴 1963—横浜市に生まれる
神奈川歯科大学卒業
1995—アジェの作品に出会い、撮影及びモノクロームプリントに
取り組むようになる。
2001—第37回神奈川県美術展 特選





【準大賞】「祭りの少女」渡辺 富司

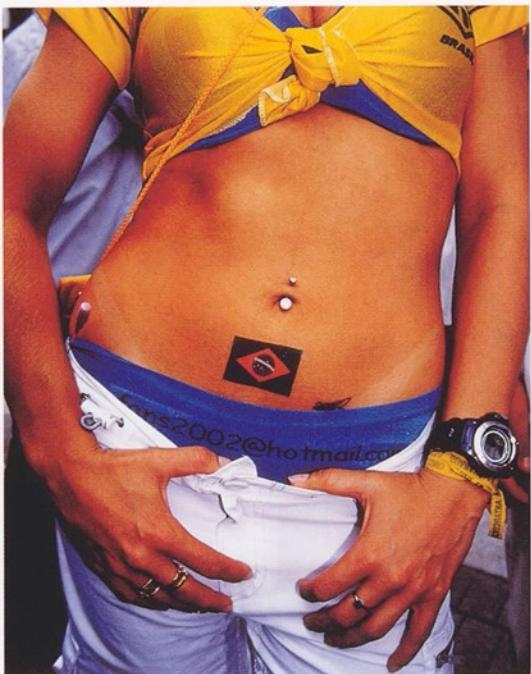
略歴 1931—横浜に生まれる
1964—横浜市立大学医学部卒業
1974—野庭中央診療所所長
1995—神奈川県保険医協会写真同好会会員
1997—二科会写真部神奈川支部会員
1999—ハマ展、市会議長賞、入選3回
2000—神奈川二科写真公募展、コニカ賞・努力賞、入選2回
第36回神奈川県美術展、特選、入選2回
2001—二科会写真部本展入選2回



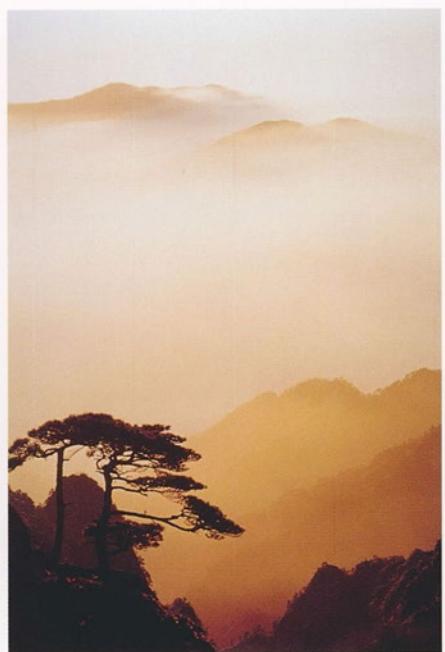
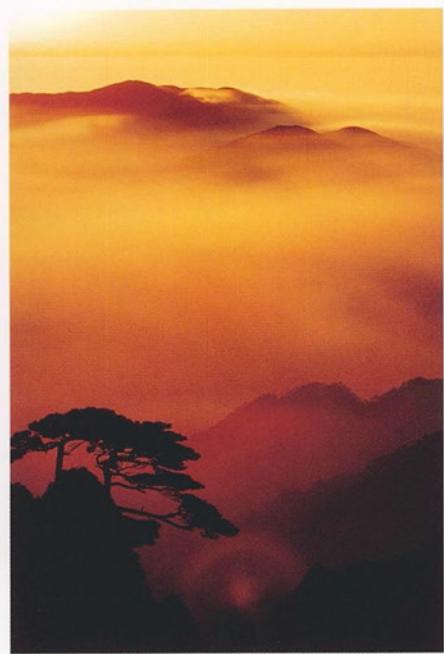
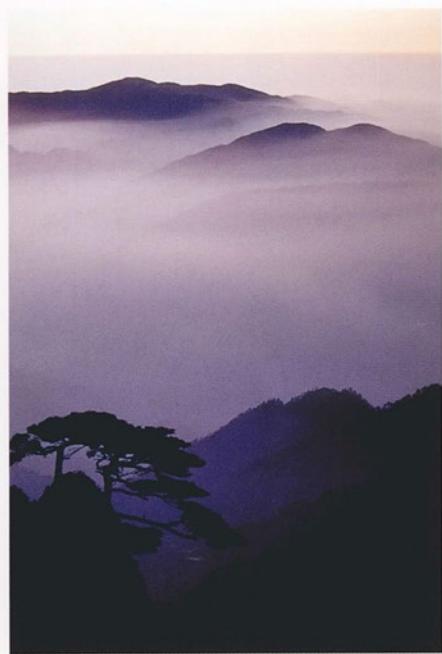
【特 選】「花と遊ぶ」原田 健児



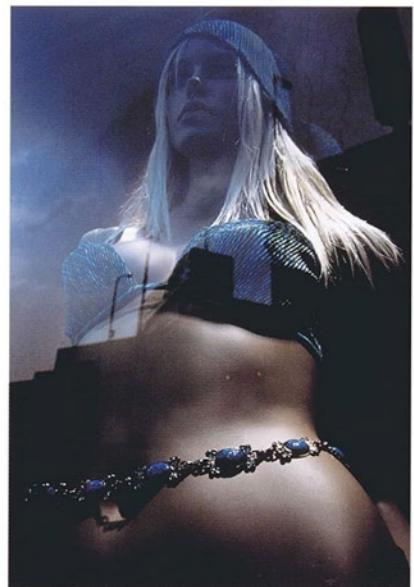
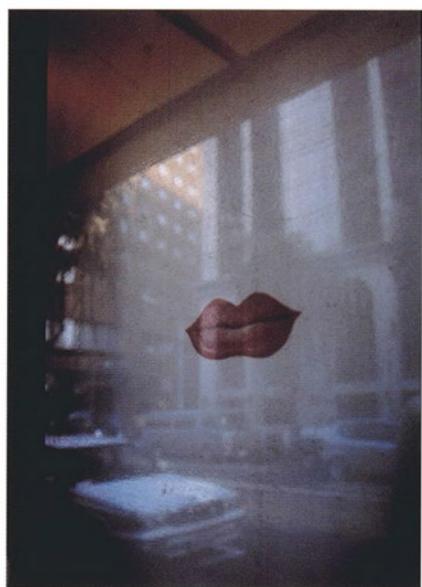
【特 選】「動物讃歌」榎原 俊寿



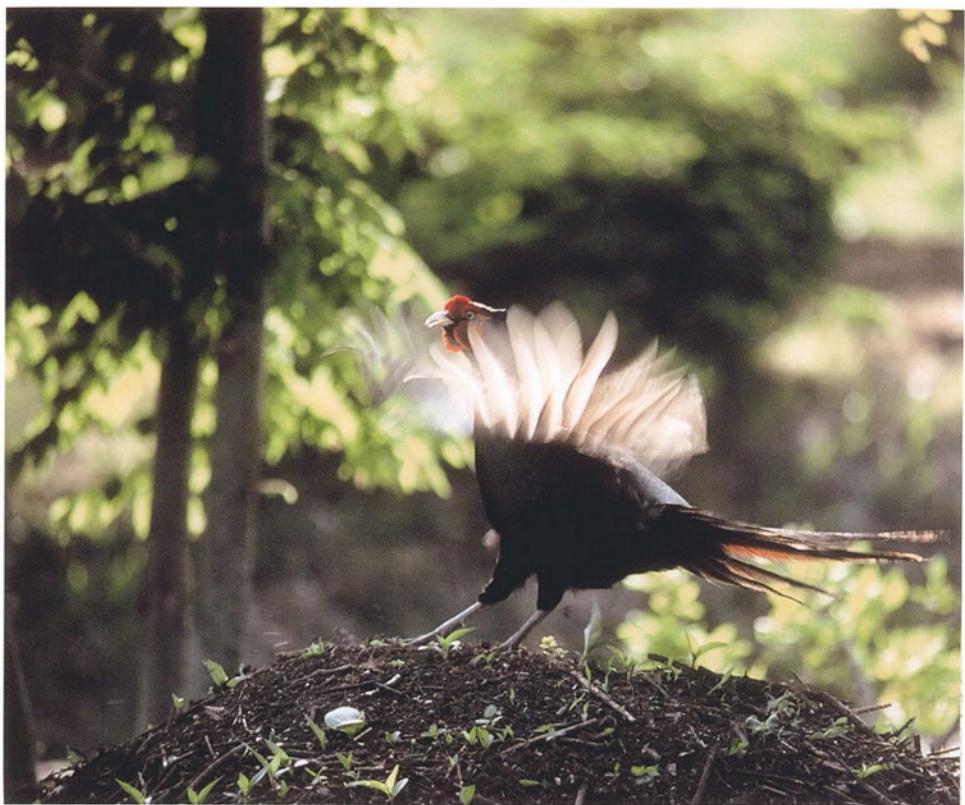
【特 選】「Viva, Brazil」井上 喜和子



【特 選】「黄山払暁」山田 實



【特 選】「残像の街」斎藤 ふさ子



【特 選】「乱れる羽根車」関口 利行



【美術奨学会賞】「アフターヌーン」今野 良一



【美術奨学会賞】「早春譜」佐藤 幸悦

市町村別出品者一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
横浜市	94	12	84	103	148	441
川崎市	25	4	15	13	19	76
横須賀市	10	1	6	17	9	43
藤沢市	13	2	4	15	14	48
茅ヶ崎市	7		4	6	2	19
平塚市	5		4	4	6	19
鎌倉市	15		11	29	13	68
逗子市	6	1	4	2	1	14
三浦市					1	1
相模原市	27	6	4	16	7	60
厚木市	7		4	2	4	17
大和市	4	1	2	3	6	16
伊勢原市	4		2	2	5	13
秦野市	4	1		1	1	7
座間市	2		2		5	9
海老名市	3			2	4	9
綾瀬市	1			2	3	6
小田原市	3		6	7	1	17
南足柄市						0
葉山町	3		1		2	6
寒川町	1		2	1		4
大磯町	1			4		5
二宮町	2	1	4	1	1	9
中井町						0
大井町						0
松田町						0
山北町				1	1	
開成町					0	
箱根町					1	
真鶴町					0	
湯河原町				1	1	2
愛川町	1		1			2
城山町			3			3
津久井町	1					1
相模湖町						0
藤野町		1				1
清川村					0	
県内計	239	30	163	231	254	917
東京都	15	3	5	3	2	28
その他道府	6	0	3	1	1	11
県外計	21	3	8	4	3	39
合計	260	33	171	235	257	956

市町村別入選者一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
横浜市	22	6	47	65	62	202
川崎市	7	1	6	9	6	29
横須賀市	7		3	12	5	27
藤沢市	5	2	3	8	4	22
茅ヶ崎市	4		1	5	2	12
平塚市			1	3	2	6
鎌倉市	10		7	13	6	36
逗子市	3	1	4	1	1	10
三浦市					1	1
相模原市	17	2	3	14	2	38
厚木市	2		3	2	1	8
大和市	3	1	2	3	2	11
伊勢原市	1		1	2	1	5
秦野市	2			1		3
座間市	2		2			4
海老名市	1			2	3	6
綾瀬市	1			2	2	5
小田原市	2		6	3	1	12
南足柄市						0
葉山町	2				2	4
寒川町				1		1
大磯町	1				4	5
二宮町				3	1	4
中井町						
大井町						0
松田町						0
山北町						0
開成町						0
箱根町						0
真鶴町						0
湯河原町					1	1
愛川町	1					1
城山町		3				0
津久井町	1					0
相模湖町						0
藤野町	1					0
清川村						0
県内計	92	13	95	150	104	454
東京都	12	1	3	3	0	19
その他道府	5	0	2	0	0	7
県外計	17	1	5	3	0	26
合計	109	14	100	153	104	480

出品点数一覧表

	平面	立体	小計	工芸	書	写真	小計	合計
人数	260人 (109)	33人 (14)	293人 (123)	171人 (100)	235人 (153)	257人 (104)	663人 (357)	956人 (480)
点数	433点 (109)	35点 (14)	468点 (123)	207点 (100)	235点 (153)	859点 (168)	1,301点 (421)	1,769点 (544)

※()内は入選者数と入選点数

大賞受賞者

第1回 昭和40年度	大森 運夫『九十九里』日本画	第25回 平成元年度	セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』彫刻
第2回 41年度	廣瀬 義男『作品I』洋画		片岡 順一『大気現象』写真
第3回 42年度	垣内 治雄『坐る』彫刻	第26回 2年度	山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画
第4回 43年度	川村 直子『'69-A・'69-B』洋画		高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第5回 44年度	山井イク夫『Laby 70-1・2』立体造形	第27回 3年度	荒井 正美『蟻の迷走』彫刻
第6回 45年度	伊藤 彰『天涯巡礼』日本画 大久保利圏『Straw』工芸 西川 万象『盧子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真		相沢 順一『樹界』写真
第7回 46年度	中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵐『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・サンダー(フェリス女学院)』写真	第28回 4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD 92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書
第8回 47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第29回 5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸
第9回 48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第30回 6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笹澤美明詩 菊』書
第10回 49年度	大山 鎮『語り』日本画	第31回 7年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂金』工芸
第11回 50年度	鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第32回 8年度	結城 勉『個々の領域—群像II』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民(ネパール)』写真
第12回 51年度	泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第33回 9年度	舛持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8朝』写真
第13回 52年度	井上 麦『黒の女-'77』彫刻	第34回 10年度	笛井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『M!! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真
第14回 53年度	坂田 一之『MIRROR』立体造形	第35回 11年度	川田 祐子『BIO-PANORAMA』平面立体 齋藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稻葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真
第15回 54年度	前本 利彦『暗い部屋I・II』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書	第36回 12年度	川城 夏末『Balance 2000 No.1』平面立体 『Balance 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書
第16回 55年度	和久井Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真	第37回 13年度	吉田 陽子『最後の楽園(ガラバゴス)』写真 小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書
第17回 56年度	坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸	第38回 14年度	福田 幸子『女瞳私1.2.3(NUDE)』写真 高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 栃木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『far away—いつか置いてきたもの—I~V』写真
第18回 57年度	小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真		
第19回 58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹聲松影』書		
第20回 59年度	東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸		
第21回 60年度	鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真		
第22回 61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 艸舟『良寛詩』書		
第23回 62年度	高橋 洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書		
第24回 63年度	三枝 孝司『複製された場所』版画 管間ゆみい『夢印象』工芸		

もっと近くに、ずっと一緒に。



Good for you
CERTE

〒231-0016 横浜市中区真砂町3-33 (JR・地下鉄関内駅前) TEL 045-651-1431(代)

プロのために、
プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

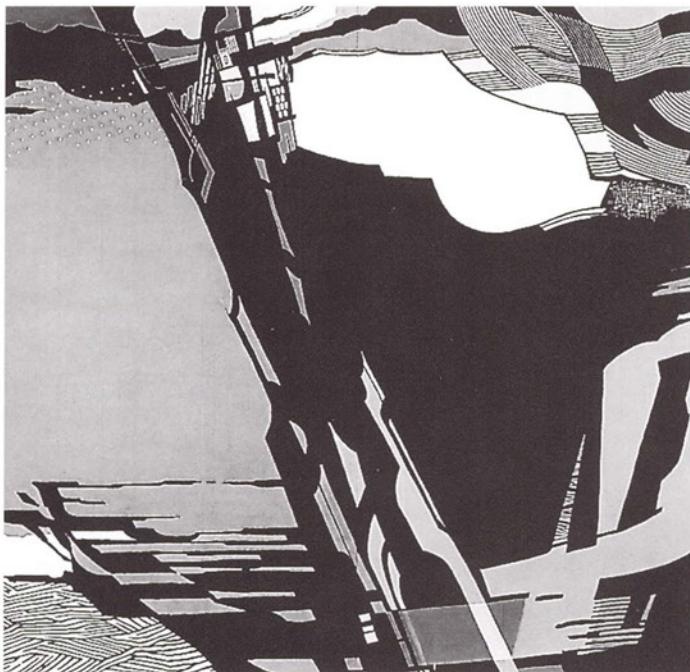
- 本店文具館 イセザキ町・本店文具館4F・5F … TEL. (045) 261-1231
- ルミネ横浜店 ルミネ5F ……………… TEL. (045) 453-0811
- 藤沢店 藤沢駅南口名店ビル2F ……………… TEL. (0466) 26-1411
- 厚木店 小田急線・本厚木駅前 ……………… TEL. (046) 223-4111

有隣堂ギャラリー〈イセザキ町・本店書籍館B1〉

《個展・グループ》申込み承り中 ※お申し込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝広報室 (045) 825-5507

あと 遊び

岡田ゆう子（2000年3月工芸染織科卒）。
第39回日本現代工芸美術展入選。卒業
製作「斜影」

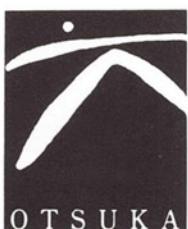


入学案内無料送付・学校見学随時

◎入学願書受付 推薦入学 10月1日～1月31日
一般入学 11月1日～3月31日

◆学科構成

テキスタイルデザイン科	(昼3年)
工芸染織科	(昼2年)
友禅染色コース	
伝統織物コース	
プリンティングデザイン科	(夜2年)
ウィービングデザイン科	(夜2年)

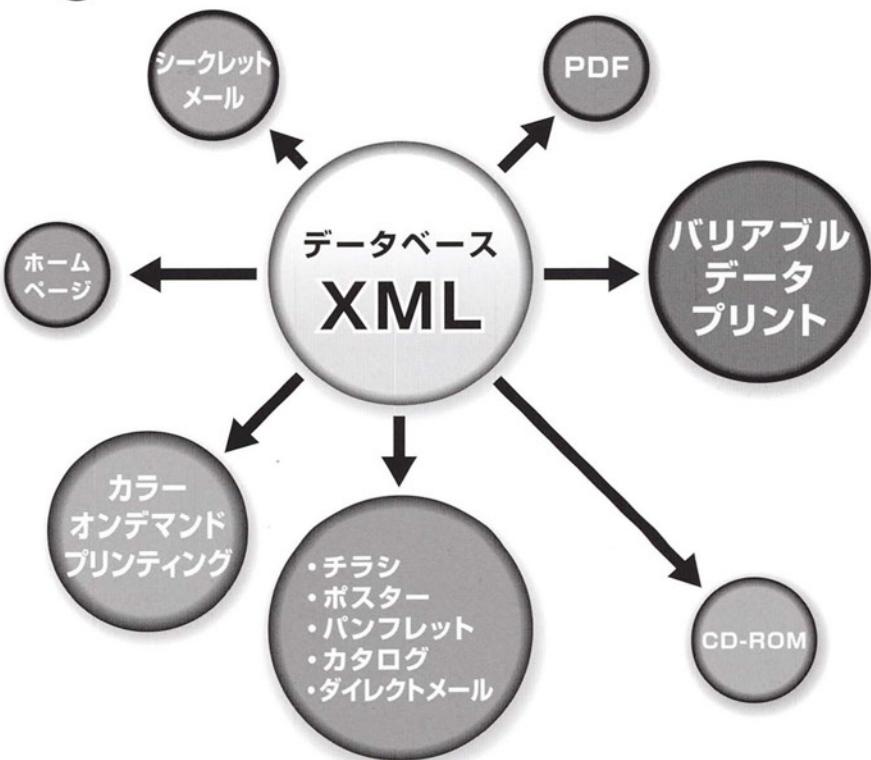


学校法人 大塚学院

大塚テキスタイルデザイン 専門学校

(姉妹校) 大塚末子きもの学院 大塚情報処理専門学校
〒160-8560 東京都新宿区須賀町10番地 ☎03(3357)3671 FAX 03(3226)9745
URL : <http://www.otsukagakuin.ac.jp> E-mail : info@otsukagakuin.ac.jp

多デヒ 多样に活用。 リタつとの 用。



- 業務効率の向上
- 納期の短縮
- 経費の節減

当社はISO9001認証取得とともに
デジタルデータの活用を通じて
印刷のデジタル化“Digital Graphics”を
他に先駆け推進してきました。
これまでに培ってきた高度な情報処理力で
お客様の期待に十分お応えします。

ISO 9001 認証企業

 **野毛印刷**

営業企画本部／横浜市南区新川町1-2 〒232-0027

📞(045)252-2511

本 社／横浜市中区相生町5-79 〒231-0012

ホームページ <http://www.noge.co.jp>

第38回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成14年9月11日現在)

顧問

近藤 弘明
井上 信道
圓鍔 勝三
蓮田脩吾郎
菅原 寿雄
中原 佑介
吉田 耕三

工芸

井上 壽博
音丸 淳
金子 賢治
佐野登志子
塩沢 照彦
永井鉄太郎
広川 青五

神奈川県美術展委員会

委員長 上野 豊
委員 神戸 由雄
海老塚耕一
大矢 紀
岡本 敦生
建畠 哲
田中 稔之
柳生不二雄
赤堀 郁彦
金子 賢治
丹羽 蒼処
船木 芳雲
江成 常夫
大河原雅彦
小林 賢
藏 隆司

書

川口 流波
鈴木 春子
田宮 文平
丹羽 蒼処
春山 右濤
船本 芳雲
柳沢 弘子

写真

江成 常夫
大河原雅彦
河野 和典
土田ヒロミ
常盤とよ子
浜口タカシ
松本 徳彦

審査員

平面 立体
海老塚耕一
小池 一子
酒井 忠康
鳴 剛
田中 稔之
中野 嘉之
柳生不二雄

第38回神奈川県美術展

発行●財団法人神奈川芸術文化財団 ©2002
神奈川県民ホールギャラリー
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL.045-633-3687

撮影・株式会社菊屋写真工房●大橋一彦
表紙・本文デザイン・制作●株式会社 野毛印刷社
発行●2002年9月11日

